

日本ミニ・パブリックス研究フォーラムの 設立にあたって

東京工業大学大学院

教授 坂野 達郎

ミニ・パブリックス研究フォーラムができるきっかけは、2012年の篠原一先生が編集されました『討議デモクラシーの挑戦』の出版に際して、篠藤先生と私が編集をお手伝いさせていただいたことに始まります。篠原先生が大変残念なことに先日お亡くなりになられ、偲ぶ会が先週（12月7日）開かれました。偲ぶ会でいただいた業績目録の冒頭に先生がお書きになられた数編のエッセーが掲載されていました。そのエッセーの中で、「21世紀はニューヨーク同時多発テロによって始まった。暗い世紀の始まりだが、われわれは21世紀も夢を持って歴史をつくっていききたい」そのため、「市民の情熱」と「熟議民主主義」が必要であると語られていました。篠原先生ご自身は「自分の仕事は種をまくこと」とおっしゃっておられました。もう少し早くこの研究フォーラムができていればと思うと悔やまれてなりません。

この会では、実践者と研究者の交流の場を作りたいと考えています。ただミニ・パブリックス自体定義が必ずしも明確ではありません。最も厳しい基準でいえば厳密なランダムサンプリングによって選出された市民ということになると思いますが、厳密なランダムサンプリングにこだわる必要はないと考えています。何らかの形で市民に集まってもらい、討議したことを政策形成に活かそうという試みが1990年代から世界的に活発化してきました。日本でもいろいろな試みがなされてきました。代表的なものでは、コンセンサス会議、市民討議会、DPなどです。当初は手探りで行っていましたが、いよいよ実験的段階を終わり、社会に普及してほしいという思いが広がってきているのだと感じています。しかし、各手法を実践してきた人、これから実践してみたいと考える者が

手法の違いを超えて集まり、意見交換をする場がこれまでありませんでした。そこで、ミニ・パブリックスに関心がある人や実践者が集まり、経験を共有し、そこから新しい一歩を踏み出せるようにという考えから、篠藤先生が声かけを始められ本日に至りました。実践だけではなく、理論的な見通しも必要ですので、田村先生にも呼びかけ人に入ってもらいました。

ミニ・パブリックス研究フォーラムは学会組織のようなフォーマルな組織を考えておりません。活動の趣旨に賛同していただいた方がメンバーだと考えております。そういった方々のゆるやかなネットワークの形成が本フォーラム狙いです。具体的には、年一回の本日のようなフォーラムを開催することを中心に交流を深めていきたいと考えております。

本日は設立総会を記念して、最初に田村先生から基調講演をいただき、続いてディーネル先生からも講演していただきます。後半は、実践者からの講演という流れで進めたいと考えています。その後懇親会もごぞいます。そちらの方も是非ご参加ください。